

研究課題 (テーマ)	産後 2 週間健診における 40 歳以上の高年初産婦に特化した支援指標の作成		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科	助教	三加 るり子
分担者	看護学科	助教	西村 香織
	看護学科	准教授	工藤 里香
	看護学科	教授	松井 弘美
研究結果の概要			
<p>第 1 子を出産した母親のうち 40 歳以上で出産した者は 4.6%と近年増加傾向にある。40 歳以上の高年初産婦は産後に心身ともに疲弊しやすく家族支援も得にくい状況にあり、支援に携わる助産師には母子を中心とした個別的支援が求められている。その中で、子育て支援対策として産後うつ予防を図る観点から平成 29 年度より産婦健康診査事業が新たに開始し、母親は産後 2 週間での医療者支援を受けやすくなった。しかし、産後 2 週間健診について一般的な指針はあるが、これは 40 歳以上の高年初産婦に特化した内容や個別性を重視したものではない。そのため本研究では、産後 2 週間健診における 40 歳以上の高年初産婦に特化した助産師の着眼点と支援のあり方を明らかにし、支援指標を作成することを目的として調査と分析を行った。</p> <p>40 歳以上高年初産婦の産後 2 週間健診を担当する 2 次医療機関に勤務し、研究に同意が得られた助産師を対象に半構成的面接を行った。研究協力者の了承を得て面接内容を録音し、得られたデータは全て匿名化し個人が特定できないよう処理した。本研究は、本学と研究協力施設の倫理審査委員会の承認を受け、実施した。</p> <p>研究協力者は 7 名、勤続 10.4±3.58 年であった。分析の結果、3 つのテーマ【助産師の視点】【支援の内容】【情報共有・連携】、12 のカテゴリーが抽出された。【助産師の視点】では「育児における特徴」「周囲の協力体制」を中心とした視点が多かった。【支援の内容】では「支援する際の思い」を基盤にして「2 週間健診時の高年初産婦への支援」「2 週間健診時のサポート者への支援」を行っていた。【情報共有・連携】では「助産師間での情報共有」が多く、「保健センターとの連携」「産後ケア施設との連携」が少なかった。</p> <p>本研究結果より、産後 2 週間健診における 40 歳以上の高年初産婦の支援に携わる助産師は、高年初産婦の特徴を念頭に置いた上で必要な情報収集をし、本人とサポート者に対して個別支援を行っていた。産後 2 週間健診の時期は自宅で生活しているため高年初産婦の生活環境や身近な支援者を把握することが重要であり、その人に合わせた具体的な支援の提供が求められる。また、高年初産婦が孤立しないよう医療機関内だけでなく、地域との連携をさらに強化する必要性が示唆された。</p>			
今後の展開			
<p>本研究結果より【情報共有・連携】における「産後ケア施設との連携」がさらに必要であることが明らかとなった。よって、今後は産後ケア施設で行われているケア内容を明らかにし、医療機関との連携強化を図っていく。そして、40 歳以上の高年初産婦に特化した支援指標の作成を目指す。</p>			